

# 日本語教育における外来語表記の諸問題

——韓国語母語話者の日本語学習者の場合——

馬瀬 良雄  
中東 靖恵

## はじめに

日本語の外来語<sup>1</sup>は現在さまざまな議論の対象となっている。外来語数の急激な増大、外来語表記のゆれ——これらは従来からも言われてきたことであるが、これらに加えて、近年は外来語アクセントの平板化現象も取り沙汰されている。

外来語数増大についての懸念の声は以前からも少なくなかったが、平成7(1995)年度第20期国語審議会は外来語をめぐって次のような答申<sup>2</sup>を出している。

外来語・外国語の使用は、避けられない場合もあるが、新奇な片仮名言葉や和製英語、省略語（「アポ」「トラブる」など）は、安易に使わないようにすべきであろう。

特に、官公庁等においては、その公的、公共的性質から、新奇な片仮名言葉等の使用を避け、平明で的確な言葉遣いに努めるべきであろう。

このような指摘はされているが、今のところ、フランス政府が1994年に行ったような外来語流入を規制する具体的な政策<sup>3</sup>は取られていない。

外来語表記のゆれの例として、よくあげられるものの中から幾つか引くと、

「コンピューター／コンピュータ」「インキ／インク」

「テレホン／テレフォン」「セパード／シェパード」

「ウエイトレス／ウエートレス／ウエイトレス／ウェートレス」

「バイオリン／ヴァイオリン」「スムーズ／スムース」

など枚挙にいとまがない。外来語表記については古くから問題となり、明治時代の後期1902(明治35)年に設置された国語調査委員会が、普通教育における目下の急に応じるための6項の調査事項の一つに「外來語ノ寫シ方ニ就キテ」を

取り上げたのを始め、臨時国語調査会では、1926（大正15）年に「假名遣改訂案」の補則として「當字ノ廢棄ト外國語ノ寫シ方」を公表した。また、戦後には1954（昭和29）年、国語審議会部会報告「外来語の表記」が出され、最近では1991（平成3）年に「外来語の表記」が内閣告示されている。

一方、新聞・放送界は、外来語表記について上の1954（昭和29）年の「報告」を基にし、審議した結果を『新聞用語集』（1954）に「外来語の書き方」としてまとめ、さらに1991（平成3）年の「内閣告示」を受けてこれを討議し、1996（平成8）年の『新聞用語集』の中に、改訂された「外来語の書き方」を載せている。外来語表記の問題は古くて新しい問題である。政府・新聞・放送界のこれに対する対応の変遷もあり、大きく言えば次第に原語の音声に近い表記へとという方向を取りつつも、外来語表記のゆれは一向に解消の様子を見せていない。

外来語のアクセントについては、最近その平板化現象が盛んに取り上げられている。従来、サークル、スクーター、トースト、ドラマ、マネージャー、モデルなどのように起伏型であった外来語のアクセントが、若年層を中心に、一様に、サークル、スクーター、トースト、ドラマ、マネージャー、モデルなどのように平板型で発音される傾向がある。起伏型アクセントの平板化がその語を使用する部門に属する人々の間で多く用いられるところから、「専門家アクセント」とも呼ばれる<sup>4</sup>。この現象は、首都圏のみならず若年層を中心に全国に広がっている<sup>5</sup>。しかも、注意すべきは、平板化現象は東京式アクセント地域は言うまでもなく、京阪式アクセント地域にも広く見られることである。

このような外来語をめぐる諸問題は、日本語教育においても当然問題となっている。日本人でさえ意味の分からない外来語が横行している現在、日本語を外国語として学ぶ日本語学習者にとって、それが日本人以上に問題となることは容易に想像される。外来語が外国語からの借用語だといっても、原語との間に、発音は言うまでもなく、意味・用法が異なる場合も多い。例えばフランス語‘avec’[avɛk]<sup>6</sup>は「アベック」[abekku]として日本語に取り入れられているが、この語はフランス語では「…と一緒に」などの意味を表わす前置詞であるにもかかわらず、日本語では名詞として「男女の二人連れ」の意味で用いられる。和

製英語になると、ますます意味が分かり難くなる。また、日本語の外来語には英語出自の語が多いが、かといって、英語を母語とする日本語学習者にとって外来語の学習は決して易しいものではない<sup>7</sup>。日本語を外国語として学ぶ人が国の内外で数百万人にもものぼる今、日本語教育における外来語教育について考えなければならない問題は多く、その解決も緊急を要する。

このような状況を踏まえ、我々は韓国語及び台湾語（台湾で話される閩南語）を母語とする日本語学習者を対象に、外来語の調査を行った。小論では韓国語母語話者より得られた資料を中心に扱い、台湾語母語話者の資料については別稿に譲る。調査資料は、主に対照言語学的観点から分析・考察を行い、韓国語母語話者に見られた日本語外来語の特徴を明らかにする。ここで得られた知見は、韓国語母語話者への外来語教育は言うまでもなく、日本語教育における外来語教育へも示唆を与えるであろう。

## 2. 調査の概要

調査の概要を述べる。①インフォーマント：韓国語を母語とする日本語日本文学専攻の大学3年生34名<sup>8</sup>。調査時の大学における日本語学習歴は2年6ヶ月。②調査方法：英語出自の外来語<sup>9</sup>について、原語を示し、それを日本語の外来語としてカタカナで書いてもらった。例)「bed ( )」を示し、括弧内に答えを記入。例えば「ベッド」のように。③調査年月：1996年9月。なお、台湾語を母語とする日本語日本文学専攻の大学3年生33名にも同様の調査を行った。調査時の大学における日本語学習歴は2年7ヶ月。調査年月は1997年4月。

## 3. 調査の結果と分析

### 3.1 調査の結果

調査の結果を次に示す。まず、調査語の原語をあげ、括弧の中に日本語及び韓国語の表記を記した。回答語形<sup>10</sup>は多い順に並べ、回答者数を括弧内に示した。正答には\*を付した。なお、NRは‘No Respondence’（回答なし）の略語である。調査原語は音節の少ないものから順に並べた。日本語の外来語表記は『広辞苑 第4版』（1991）、『大辞林 第2版』（1995）、『新明解国語辞典 第5版』（1997）などを参照した。また、韓国語外来語表記は『새 한글 맞춤법 사전』（1985）と『日本語 외래어사전』（1994）を参照した。

1.bat（バット，배트）

バット\*（7）、ベット、ベト（各5）、ベート（4）、ベツ（3）、バート（2）、パッタ、ペット、パト、バイト、バエツ、バト、ビエト、ベ（各1）

2.bed（ベッド，베드）

ベット（8）、ベト、ベド、ベード（各6）、ベッド\*、ベート（各2）、バート、バエド、ビエド、ベエト（各1）

3.cake（ケーキ，케이크）

ケイク（11）、ケーキ\*（7）、ケイキ（4）、ケーキ（3）、ケイック（2）、カエイッ、キーク、ケーキー、ケキー、ケッーキ、ケョーキ、チイク<sup>11</sup>（各1）

4.coat（コート，코트）

コート\*（20）、コット、コト（各3）、コアト、コオト（各2）、クット、コウト、コーツ、コーシ<sup>12</sup>（各1）

5.drive（ドライブ，드라이브）

ドライブ\*（21）、トライブ（8）、ドライブユ、ドライホ、ドライボ、ツライブ、NR（各1）

6.game（ゲーム，게임）

ゲイム（10）、ゲーム\*（9）、ケイム（7）、ゲイン（3）、ケイムー（2）、ケイーロ<sup>13</sup>、ゲーイム、ケェームー（各1）

7.glass（グラス，글라스）

グラス\*（17）、クラス（6）、グレス（3）、クレス（2）、グラーズ、クラシ、ケス、ゲレス、ダラス、ギレエス（各1）

8.news (ニュース, 뉴스)

ニュース\* (14), ニュス (10), ニュウス (2), ヌース, ヌウス, ヌス, ヌ  
ニース, ヌユス, ノエス, ユース, NR (各1)

9.building (ビル, ビルディング, 빌딩)

ビルディン (5), ビルディング\*, ビルヂン, ビルデン (各3), ビ, ビル\*  
(各2), ビール, ヒールダイン, ビイイルヂイン, ビーチ, ビイツツン, ビユ  
ルデン, ビルタン, ビルチン, ビルテ, ビルデェン, ビルデング, ビルドイ  
ング, ビンジン, ビンデン, ビンディン, NR (各1)

10.coffee (コーヒー, 커피)

コーヒー\* (14), コーヒ (8), コーピ (4), コピ (2), カーピ, カーピー,  
カァピィ, コビ, コヒー, コピー (各1)

11.copy (コピー, 카피)

カピ (10), カーピ (7), コピ, コピー\* (各3), カピィ (2), カーピー, カ  
アヒィ, カッピ, カビ, カピー, カビィ, コーピ, コーピー, コピィ(各1)

12.fashion (ファッション, 패션)

パーション, パション (各3), パッション, パソン, フェアション, フェショ  
ン, ペション (各2), ハッソン, パーションー, パアーション, パースシン,  
パーソン, バーソシ, パァション, パシソン, パスィン, ピェ, ファション,  
ファッシン, ファソヨン, フェッシユン, フッシン, ペサン, ペシユン, NR  
(各1)

13.guitar (ギター, 기타)

ギータ (9), ギター\* (5), キータ, ギーター (各4), キーター, ギタ (各  
2), カイト, ギイタ, ギイタール, ギタール, ギタア, ケィ, ジィーター, NR  
(各1)

14.handbag (ハンドバッグ, 핸드백)

ハンドバク (7), ハンドバック (5), ハントバク (2), ハアトビアク, ハン  
ト, ハントバック, ハントバンク, ハンドハック, ハンドパーク, ハンドバー  
ク, ハンドバアク, ハンドバガ, ハンドバッグ\*, ハンドバン, ハンバグ,

ヘンツベク, ヘントベク, ヘンドバシク<sup>14</sup>, ヘンドバック, ヘンドベツ, ヘンドベック, ヘンドベヤック, ヘンバーク (各1)

15.hiking (ハイキング, 하이킹)

ハイキン (20), ハイキング\* (7), ヒキン (3), ハアキン, ハイキイン, ハイキク, ハヒキン (各1)

16.jogging (ジョギング, 조깅)

ジョギン(7), ジョギング\* (6), ゾキン (3), ゾギング (2), ジョギン, ジャングル, ジゲイン, ジュギング, ジョーイン, ジョーギン, ジョーギング, スォキン, ズョーギン, ゾイン, ゾウギン, ゾーウーギンク, ゾギン, ゾョギン, チョキン, NR (各1)

17.office (オフィス, 오피스)

オピス (21), アピス, オピース, オピイス (各2), アパス, アピーシ, アヒイス, オーピス, オフィス\*, オフイース, ホピス (各1)

18.sweater (セーター, 스웨터)

スウェーター (4), スエータ, スエト (3), ス, スウエータ, スウエタ, スエター (各2), シェーテレ, スウアツウ, スウイット, スウイト, スウエト, スウエト, スエ, スエタ, スエーター, スエート, スエタエル, スエッタ, スエッター, スワートー, スウェート, セータ (各1)

19.taxi (タクシー, 택시)

タクシ (12), テッシ, タクシー\* (各5), タッシ (2), ケッシ, タータシ<sup>15</sup>, タエッシ, タクーシ, タクス, タツソ, タンシ, タンツ<sup>16</sup>, テクシ, テッシ (各1)

20.radio (ラジオ, 라디오)

ラジオ\* (18), ラデオ (3), ラジーオ, ラディオ, レディオ (各2), ラスオ, ラチオ, ラヂオ, ラヂイオ, レエチオ, レシオ, レデオ (各1)

21.supermarket (スーパーマーケット, 슈퍼, 슈퍼마켓)

スパマーケット (5), スーパマーケット, スパマケツ (各4), スパーマーケット (3), ス, スーパマケト, スパーマケト (各2), シェパアメケト, シュパマーケット,

スーパ, スーパーマーケット\*, スーパーマケッ, スーパーマケツト, スパ  
マケン, スポマケト, スュパマケツト, スワパマケツ, マーキト, NR (各1)

## 22.apartment house (アパート, 아파트)

アパートメントハウス(7), アパトマントハウス(6), アパートハウス, アパー  
トマントハウス(各3), アパトメントハウス, アパトハウス(各2), アパー  
トヌントハウス, アパートマント, アパートマンハウス, アパートメントハ  
ウシ, アパートモントハウス, アパトマンハウス, アパトムントハウス, ア  
バート, アバートムント, アパアトメトハウス, アバドメントハウス(各1)

## 23.department store (デパート, 디파트먼트 스토어)

デパトメントストア(3), デパトマントストア, デパートストア, デパトス  
トア, デパトマントストア, NR(各2), ジパトメントストア, ダイパート  
マントストア, ティパトマントストアー, ティパトムントスト, デイパート  
メントストア, デイパートメントストア, デイパアトマトストア, デイパ  
ドマントストア, デュパトマントストア, テパート, デパート\*, デパート  
マンストハ, テパートマントストワ, デパートマントストア, デパートマ  
ントストア, デパートモントストア, デパートメントストア, テパトマント  
ストー, デパトマントストア, デパトムントストア, デパトメントシドー  
ル(各1)

## 3.2 調査資料の分析

### 3.2.1 原語に無声閉鎖音・有声閉鎖音を含む語の場合

ここでは、語頭・語中・語末の無声閉鎖音と有声閉鎖音を含む語の場合につ  
いて述べる。表1, 表2, 表3をご覧ください。表1・2は、原語に閉鎖  
音を含む調査語について、無声閉鎖音を有声閉鎖音で始まるカタカナに、ある  
いは有声閉鎖音を無声閉鎖音で始まるカタカナに誤って表記した割合を音環境  
ごとに示している。例えば「バット」であれば、これを「パット」「ペット」

表1：語頭閉鎖音における誤表記率

音環境	原語	外来語	%	音環境	原語	外来語	%
/t-/	taxi	タクシー	0.0	/b-/	bat	バット	8.8
/k-/	cake	ケーキ	0.0		bed	ベッド	0.0
	coat	コート	0.0		building	ビル(ディング)	0.0
	coffee	コーヒー	0.0	/d-/	department store	デパート	23.5
	copy	コピー	0.0		drive	ドライブ	23.5
				/g-/	guitar	ギター	23.5
			glass		グラス	29.4	
			game		ゲーム	32.4	

表2：語中閉鎖音における誤表記率

音環境	原語	外来語	%
/-p-/	apartment house	アパート	8.8
	copy	コピー	5.9
	supermarket	スーパーマーケット	0.0
	department store	デパート	0.0
/-t-/	apartment house	アパート	2.9
	(apartment house	アパートメントハウス <sup>17)</sup>	0.0
	guitar	ギター	0.0
	sweater	セーター	0.0
	department store	デパート	2.9
	(department store	デパートメントストア <sup>18)</sup>	0.0
	(department store	デパートメントストア)	2.9
/-k-/	taxi	タクシー	0.0
	hiking	ハイキング	0.0
	supermarket	スーパーマーケット	0.0
/-b-/	handbag	ハンドバッグ	5.9
/-d-/	handbag	ハンドバッグ	23.5
	building	ビルディング	11.8
/-g-/	jogging	ジョギング	2.9

表3：語末閉鎖音における誤表記率

音環境	原語	外来語	%
/-t/	coat	コート	0.0
	bat	バット	0.0
	supermarket	スーパーマーケット	0.0
/-k/	cake	ケーキ	0.0
/-d/	bed	ベッド	52.9
/-g/	handbag	ハンドバッグ	82.4



などのようにパ行のカナで表記した場合を取り上げて計算したものである。表1が語頭閉鎖音、表2が語中閉鎖音、表3が語末閉鎖音の結果である。

まず、語頭閉鎖音の場合を考える。英語・日本語閉鎖音はともに「無声／有声」の音韻論的対立を有するが、韓国語にはこの対立はなく、替って「激音（有気音）／平音（無気音）／濃音（声門閉鎖音）」の対立がある。このような音韻体系の違いから、韓国語話者にとり無声閉鎖音と有声閉鎖音の識別が困難であることは予想された<sup>19</sup>が、表1より、語頭無声閉鎖音では問題がないが、語頭有声閉鎖音で誤表記が目立つ。同じ閉鎖音でありながら、なぜ無声閉鎖音の方が成績がよいのか。

これには次のような理由が考えられる。語頭無声閉鎖音を含む語として cake を例にとる。インフォーマントは cake を見て韓国語外来語“케이크”を想起する。激音 ㅋ /k<sup>h</sup>/ は強い気音を伴う無声音として実現されるので、これは日本語語頭有声閉鎖音よりも無声閉鎖音に近い。その結果、誤表記率0%であったものと考えられる。原語の ‘c’ の綴字も誤表記の防止に役立っている。一方、有声閉鎖音の場合、game を例にとって考える。インフォーマントは game を見て、韓国語“게임”を想起する。平音 ㄱ /k/ は語頭では微弱な気音を伴う無声音として実現される。日本語の無声閉鎖音は語頭で軽微な気音を伴う硬音であり、有声閉鎖音は気音のない軟音である。そこで、韓国語話者は、この語が ‘g’ という綴字で始まるにもかかわらず、気音性という点で平音と共通点を有する日本語の語頭無声閉鎖音と、軟音性で平音と共通する日本語有声閉鎖音の両者を混同したのと考えられる<sup>20</sup>。

次に語中の場合。表2より、「ハンドバッグ」「ビルディング」を除いて、誤表記率は10%以下である。韓国語外来語では、通常英語語中無声閉鎖音を激音で、英語の語中有声閉鎖音を平音で受容する。

例) hiking [háikɪŋ]→하이킹[haik<sup>h</sup>ɪŋ], jogging [dʒɔɡɪŋ]→조깅[tʃogɪŋ]

平音は語中（有声音間）で有声音として実現されるため、英語有声閉鎖音に平音を当てるのは合理的である。その結果、英語の語中における「無声閉鎖音／有声閉鎖音」を「激音／平音」の対立に置き換えることができ、それゆえに問

題が少なかったものと考えられる。

なお、表2に示した調査語の中で、taxi [tæksi]のみ、英語語中無声閉鎖音が韓国語でパッチムで表記され、内破音で実現される：택시[tʰɛksi]<sup>21</sup>。taxiの回答で「テッシ」5、「タッシ」2、「ケッシ」「タエッシ」「タッソ」「テッシー」各1回答のように[-k-]部分を「ッ」で表記した回答が32.4%見られたのには、韓国語の外来語表記とその発音が大きく影響しているだろう。

「ハンドバッグ」で誤表記が23.5%見られたのには次の理由が考えられる。英語のhandbag[hændbæg]の[d]は通常破裂しない<sup>22</sup>。つまり、インフォーマントは、handbagを見て[hæn'bæg]という発音を想起する。そこで彼等はhandbagの/-d-/を内破音[ɸ]で捉えるため、有声閉鎖音として捉えることができなかつたのではないだろうか。「ハンバグ」「ヘンバーク」という回答が見られたのも、このような理由によるものだと考えられる。

次に語末閉鎖音について見る。表3より、無声閉鎖音に関してはまったく誤表記が見られなかつたが、有声閉鎖音での数値はかなり高い。

語末の英語無声・有声閉鎖音は日本語では閉鎖音に母音を伴い開音節として受容される。

例)	cup	カップ [kappu]	pub	パブ [pabu]
	set	セット [setto]	bed	ベッド [beddo]
	back	バック [bakku]	bag	バッグ [baggū]

一方、韓国語では、一般に、語末が有声閉鎖音の場合は으[i]を添加する。無声閉鎖音の場合、先行母音が短母音の場合にはパッチムで表記され内破音で発音されるが、長母音及び二重母音が先行する際には、有声閉鎖音と同様으[i]を添加する。

例)	cup	컵 [kʰɔp]	pub	퍼브 [pʰɔbi]	wipe	와이프 [waipʰi]
	set	셋 [seʷ]	bed	베드 [pedi]	code	코드 [kʰodi]
	back	백 [peʷ]	tag	태그 [tʰɛgi]	sheet	시트 [ʃitʰi]

ただし、big (빅[pik]), bag (백[peʷ]) などのように、例外的に語末有声閉鎖音がパッチムで表記され内破音で発音される語もある。李珠雅氏(後記参照)に

よると、これは日常よく使う語や古くから使われている語に起こりやすいと言  
う。また、逆に bat (배트[petʰi]) のように語末無声閉鎖音に短母音が先行する  
にもかかわらず, 으[i]が添加される語もある。

以上の韓国語の外来語表記を踏まえて調査結果を考える。語末無声閉鎖音で  
誤表記が0%であるのは、先行母音に関係なく英語語末無声閉鎖音が、韓国語  
では内破音あるいは激音+으[i]で実現されるため、有声子音として誤認するこ  
とはなかったのだろう。なお, batでは「ベツ」3, 「バエツ」1回答, supermarket  
では「スパマケツ」4, 「スーパーマケツ」「スワパマケツ」各1回答が見られ  
た。これはインフォーマントが語末無声閉鎖音を内破音であることを想起し、  
それを日本語に置き換えようとした結果である。

次に語末有声閉鎖音の場合。bedは韓国語で“베드”であるので、語末 /d/ を  
正しく有声閉鎖音を含むカナ、濁音で回答することが予想されたが、調査では  
52.9% (18名) が無声閉鎖音を含むカナ、清音で回答していた。これには次の  
2つの理由が考えられる。第1の理由として、上述のbig, bagの場合と同じよう  
に, bedの /-d/ を内破音として[beʔ]のように捉えたことが考えられる。第2の理  
由は, bedの /-d/ は日本語で「ベッド」のように濁音「ド」で表記されるが、促  
音/Q/は固有の日本語では有声子音/d/の前には立ち得ず、実際には無声閉鎖音  
で[betto]のように発音されることが多い。洪珠瑛氏(後記参照)によると,[betto]  
は植民地時代の日本語の発音を受け継いだもので、この発音は比較的年配の者  
に多いという。そうすると、インフォーマントはbedを見て、今も韓国で行われ  
る植民地時代の日本語の発音[betto]を想起し、そのまま「ト」と清音で書いたの  
かもしれない。半数以上のインフォーマントがbedの /d/ を「ト」と表記したの  
は、この場合、第1の理由と第2の理由が連動していることも十分考えられる。

最後に handbag。ここでは82.4%のインフォーマントが語末 /g/ を「ク」と表記  
した。これはbagが韓国語で“백”と表記され、語末 /g/ が内破音ㅂで実現される  
ことが大きな原因である。「ヘンドベツ」の回答が見られたのもそのためである。

### 3.2.2 原語に /f/ を含む語の場合

英語無声唇歯摩擦音 /f/ を含む語として coffee, fashion, office の外来語を調査した。正答は 34 回答中, coffee 「コーヒー」で 14, fashion 「ファッション」で 0, office 「オフィス」で 1 回答であった。誤答の中で, 英語 /f/ を含む音節を「コピー」(coffee), 「ペション」(fashion), 「オピス」(office) などのように, 日本語の外来語としてパ行のカナで表記したものが目立ち, その数は「コーヒー」で 10, 「ファッション」で 22, 「オフィス」で 31 回答の多きに及んだ。ここで, なぜ英語 /f/ を含む音節をパ行のカナで表記した者が多かったのか考える。

coffee, fashion, office は, 日本語で, それぞれ, 「コーヒー」「ファッション」「オフィス」と表記される。なぜ, office [ɔːfis] では「オフィス」と [fi] を「フィ」で表記し, coffee [kɔːfi] では「コーヒー」と [fi] を「ヒ」で表記するのか。日本語には無声唇歯摩擦音 [f] がないが, これに近い音としてハ行子音 /h/ の異音の一つである無声両唇摩擦音 [ɸ] がある。しかし, [ɸ] は固有の日本語では /h/ に /u/ が後続する場合にしか現れない異音である。そこで /f/ を含む外国語を外来語として受け入れるときは, 後続母音が [u] ~ [u:] の時は football [fʊtbɔːl] 「フットボール」のようにこれを「フ」として表記したが, それ以外の母音が続く場合には次の3つの方法をとった。

1) 「ハ, ヒ, ヘ, ホ」で表記する。

- 例) wafers [wɛɪfəːs] →ウエハース  
 coffee [kɔːfi] →コーヒー  
 foil [fɔɪl] →ホイル (アルミホイル)

2) 「ファ, フィ, フェ, フォ」で表記する。

- 例) fan [fæːn] →ファン  
 film [fɪlm] →フィルム  
 felt [fɛlt] →フェルト

3) 「ファ, フィ, フェ, フォ」で表記する。

- 例) fashion [fæʃən] →ファッション  
 office [ɔːfis] →オフィス  
 fence [fɛns] →フェンス  
 formal [fɔːməɪl] →フォーマル

[ $\phi$ a,  $\phi$ i,  $\phi$ e,  $\phi$ o]は、現代日本語ではしばらく前まではモーラとして確立していなかった。しかし、[ $\phi$ ]は[f]と同様無声摩擦音であり、唇音性という点で共通点を持つことから、唇音性を伴わない[ha,  $\zeta$ i, he, ho]の無声声門摩擦音[h]や無声硬口蓋摩擦音[ $\zeta$ ]よりも原音[f]に近い。これらのモーラが次第に日本語に定着するに及んで、外国語の /f/ を含む音節は、日本語で「ファ、フィ、フェ、フォ」と書かれるようになった。coffeeを「コーヒー」と表記するのは、外来語として極めて早い時期に日本語に取り入れられたからである<sup>23</sup>。

次に韓国語の場合。韓国語に /f/ がないのは日本語と共通しているが、韓国語は日本語と異なり、/h/の異音として[ $\phi$ ]も有しない。そこで、無声唇歯摩擦音[f]と同じく無声音であり、唇音性・有気性という点で共通点を有することから、韓国語では英語 /f/ を激音ㅍ /p<sup>h</sup>/で受容する。

例) fashion [fæʃən]	→ 패션 [p <sup>h</sup> ɛʃən]
office [ɔ:fis]	→ 오피스 [op <sup>h</sup> isi]
football [fútbò:l]	→ 풋볼 [p <sup>h</sup> i <sup>l</sup> ɔl]
fence [féns]	→ 펜스 [p <sup>h</sup> ensi]
formal [fɔ:mət]	→ 포멀 [p <sup>h</sup> oməl]

調査の結果、英語 /f/ をパ行のカナで表記した誤りが多かったのは、上述のような英語・日本語・韓国語の音韻体系とその具体音声の相違、そしてそれに起因する英語 /f/ に対する日本語と韓国語の外来語表記の違いによるものと言える。なお、正答が「コーヒー」では多く「オフィス」「ファッション」で少ないのには、「コーヒー」が日本語教育の初期段階で習得され、使用頻度の高い語であることが関係していると考えられる。

### 3.2.3 原語に /ŋ/ を含む語の場合

英語 /ŋ/ は語頭に現れず音節末に現れる。語末 /ŋ/ について、building「ビルディング」、hiking「ハイキング」、jogging「ジョギング」の結果を見る。buildingを「ビルディン」「ビルジン」など語末 /ŋ/ を「ン」と表記したのは34回答中21、「ング」と表記した回答は5、hikingでは「ン」26、「ング」7回答、joggingでは「ン」

21, 「ング」10回答であった。つまり, 平均して, インフォーマントの約7割が英語 /ŋ/ を「ン」で表記していたことになる。

次に英語語末 /ŋ/ が日本語・韓国語でどのように受容されているか見る。英語の語末 /ŋ/ は日本語では一般に「ング」と表記される<sup>24</sup>。

例) song [sóŋ]                      →ソング [soŋŋɯ]  
    running [ráníŋ]                →ランニング [raŋŋiŋŋɯ]<sup>25</sup>

日本語では /ŋ/ が語末に立たないこと, また, 英語語末 /n/ を日本語「ン」で取り入れることから, これと区別するために /ŋ/ を「ング」と表記したものと考えられる。

一方, 韓国語では, 英語語末 /ŋ/ を ɔ[-ŋ] で受容する。

例) song[sóŋ]                      →성[sɔŋ]  
    running[ráníŋ]                →라닝[ranɪŋ]

韓国語では, 英語同様 /ŋ/ が語末に立ちうるため, 英語 /ŋ/ をそのまま韓国語に移し替えることが可能となる。そして英語の語末 /ŋ/ を ɔ[-ŋ] で表記することは極めて合理的である。一方, 日本語では英語の語末 /ŋ/ を「ング」[ŋŋɯ] と表記する。そこで, この方式に慣れないインフォーマントは母語の表記を日本語に当てはめ, かつ, [ŋ] が撥音 /N/ の異音の一つであるために, 「ン」と表記した者が多かったものと考えられる。

### 3.2.4 原語に /dɪ/ を含む語の場合

英語 /dɪ/ について, 結果の分析に入る前に, これが日本語の外来語としてどのように取り入れられているか見ておく。

1) 「ジ」 /zi/ で受容・表記する<sup>26</sup>。

例) radio [réɾiðu]                →ラジオ[raɟio]  
    dilemma [diléɾmɐ]            →ジレンマ[dziremma]  
    studio [st(j)ú:diðu]          →スタジオ[sutaɟio]

2) 「デ」 /de/ で受容・表記する。

例) digital [díɟɪtɐɟ]            →デジタル[deɟitarɯ]

candy [kændi] →キャンデー [kjande:]

department store [dɪpɑːtmənt stɔː] →デパート [depa:to]

3) 「デイ」 /di/ で受容・表記する。

例) dinner [dɪnə] →ディナー [dina:]

disk [dɪsk] →ディスク [disɯku]

wedding [wɛdɪŋ] →ウエディング [uedɪŋŋu]

building [brɪdɪŋ] →ビルディング [birɯdɪŋŋu]<sup>27</sup>

一方、韓国語では英語 /di/ を디として受容する。

例) radio [reɪdɪəʊ] →라디오 [radio]

dilemma [dɪlɛmə] →딜레마 [tɪllema]

digital [dɪdʒɪtəl] →디지털 [tɪdʒɪtʰɔl]

department store [dɪpɑːtmənt stɔː]

→디파트먼트 스토어 [tɪpʰatʰɪməntʰi sɪtʰoɔ]

dinner [dɪnə] →디너 [tɪnɔ]

building [brɪdɪŋ] →빌딩 [pɪldɪŋ]

原語に /di/ を含む語として、上の1) に属する「ラジオ」、2) に属する「デパート」、3) に属する「ビルディング」の3語を調査した。調査の結果、radioでは正答「ラジオ」が34回答中18回答で、radioの /di/ の表記には「ジ」19、「デイ」5、「デ」4、「チ」2、「ス」「シ」「ヂ」「ヂイ」各1回答が見られた。radioが韓国語で라디오[radio]であるにもかかわらず /di/ に「ジ」の回答が多かった背景には、この語が日本語教育の初期に習得され、使用頻度の高い語であることが関係していよう。また、植民地時代の日本語の影響もあるかもしれない。

department storeの /di/ の表記には「デ」21、「テ」3、「デイ」4、「ティ」2回答が見られた。韓国語で英語 /di/ は디[tɪ]で受容されているにもかかわらず、「デ」「テ」の回答が「デイ」「ティ」に比較して多かったのには、原語の綴字が‘de’であることにも理由が求められよう。なお、この語の正答「デパート」は1回答と極めて少ない。「デパートメントストア」「デパートマンストア」など原語 department storeを想起させる表記が多く、30回答に及ぶ。これには韓国語“디

파트먼트 스토어”が大きく影響していることは言うまでもない。なお、この場合も縮約形によらない日本語外来語表記「デパートメントストア」は1回答とやはり少ない。

### 3.2.5 原語に /nju/ を含む語の場合

原語に /nju/ を含む語として news [nju:z] の外来語を調査した。これは日本語では「ニュース」[nju:su] と表記され、韓国語では 뉴스[njusi] と表記される。調査の結果を見ると、14 正答を含め、/nju/ を「ニュ」と表記した者が 26 名いたが、残りには「ヌ」3、「ヌニ」「ヌユ」「ノエ」「ユ」各 1 回答があった。韓国語でも 뉴스[nju] という表記があるにもかかわらず、日本語「ニュ」の表記に苦勞のあとが窺える。これには、固有の韓国語で /nju/ が語中には立つが、語頭には立たない（梅田 1957, pp.77-78）ことが大きく影響していると考えられる。また、語頭 /n/ は /i/ あるいは /j/ が後続する場合、/ϕ/ と交替する。「ユース」の回答が見られたのはそのためである。

### 3.2.6 原語に /sw/ を含む語の場合

原語に /sw/ を含む語として sweater [swétə] 「セーター」を調査した。調査の結果、34 回答中、正答は 0 で、正答に最も近い「セータ」が 1 回答得られたほか、[swɛ] を「スエ」と表記したのが 15 回答、「スウェ」9、「スウイ」2、「スウエ」1、その他 6 回答が得られた。

従来、日本語には /wV/ のモーラは /wa/ を除いて存在しないため、/wa/ を除く /wV/ を含む外国語音を、/i/ ~ /ui/, /e/ ~ /ue/, /o/ ~ /uo/ に相当するカナで受容していた。

- 例) sandwich [sændwɪʃ] → サンドイッチ [sandoittʃi]  
weekday [wi:kdeɪ] → ウイークデー [ui:kuude:]  
waiter [wɛɪtə] → ウエーター [ueita:]  
Sweden [swí:dən] → スエーデン [sue:den]  
water [wó:tə] → ウォーター [uo:ta:]



現在では、これらを「ウイ」「ウエ」「ウオ」のように表記する場合も次第に増加している。/wi/, /we/, /wo/という/wV/のモーラが日本語に定着しつつあることが分かる。

例) wing [wɪŋ] →ウイング～ウイング [wiŋŋu]～[wiŋŋu]

waiter [wéɪtə] →ウエイター～ウエイター [ueita:]～[weita:]

water [wó:tə] →ウオーター～ウオーター [uo:ta:]～[wo:ta:]

この規則に準じるならば, sweater [swétə]は「スエーター」ないし「スウェーター」と表記されてもよいが, 実際には「セーター」と表記される<sup>28</sup>。これは /we/の音節が日本語に定着していない時期にsweaterが輸入されたため, [swe]を「セー」と表記したものである。

一方, 韓国語には위 /wi/, 외·웨 /we/, 왜 /we/·워 /wo/の音節が存在する。したがって, sweater [swétə]は스웨터 [siwetʰɔ]と受容される。「スエ (-)」「スウエ」「スウェ (-)」の回答が多いのには, このような韓国語の表記が大きく影響していると言える。

### 3.2.7 原語に /æ/ を含む語の場合

原語に /æ/ を含む語として bat, glass, fashion, handbag, taxi を調査した。日本語ではこれらは, それぞれ, 「バット」「グラス」「ファッション」「ハンドバッグ」「タクシー」と表記され, 英語 /æ/ を日本語では /a/ で受容する。韓国語話者への調査の結果, 回答は大きく二つの傾向, ①ア段のカナで表記する者と②エ段のカナで表記する者に分かれた。調査の結果を表4に示す。

表4：原語 /æ/ の表記結果 (%)

原語	外来語	①ア段	②エ段	その他
bat	バット	35.3	55.9	8.8
glass	グラス	76.5	20.6	2.9
fashion	ファッション	64.7	20.6	14.7
handbag	ハンドバッグ	76.5	23.5	0.0
handbag	ハンドバ <sup>ッ</sup> グ	79.4	14.7	5.9
taxi	タクシー	76.5	20.6	2.9

表4より、英語/æ/をア段のカナで表記した者が「バット」以下6語の平均で68.2%を占めている一方で、エ段のカナで表記した者が平均26.0%を占めていることが分かる。これには母語である韓国語の表記が大きく影響している。上述のように、英語/æ/は日本語では/a/で受容されるが、韓国語では一般にこれを애/e/で受容する。現代の韓国語若年層話者では、에/e/と애/e/の発音上の区別は失われているが、外来語表記の上では英語[æ]を韓国語애で、英語[ɛ]を에で受容する。

例) bag [bæɡ] →백                      bed [béd]→베드  
 action [æksʌn] →액션                  egg [ég] →에그

bat, fashion, handbag, taxiは、韓国語でそれぞれ, 배트[petʰi], 패션[pʰɛʃən], 핸드백[hendibeʰk], 택시[tʰɛʰʃi]と表記される。このような韓国語外来語表記が調査結果に影響したものである。このような韓国語外来語表記の影響がありながらもア段のカナで表記した割合が高かったのには、原語の綴字が‘a’であることが大きく影響しているだろう。また、glassは글라스[killasɪ]のように、例外的に英語[æ]が韓国語[a]として表記されるが、それにもかかわらずエ段のカナで表記した者は20.6%と他の語と大差ない。これは、多くの語で英語[æ]が韓国語外来語で애/e/として表記されていることによるものだと考えられる。なお、batで他の語よりもエ段のカナで表記した割合が2倍以上にも及ぶのは、日本語学習において「バット」と表記されたこの語に接することが比較的少なかったため、インフォーマントは英語の発音とその韓国語表記배트をもとに日本語の外来語を書いたことに原因があろう。

### 3.2.8 原語に/ei/を含む語の場合

原語に二重母音/ei/を含む語としてcake [kéik]「ケーキ」、game [géim]「ゲーム」の外来語を調査した。調査の結果を見ると、/ei/を「ケイキ」「ゲイム」など連母音/ei/に相当するカナで表記したのは34回答中cakeで17、gameで24回答、「ケーキ」「ゲーム」など長音符号で表記したのはcakeで11、gameで9回答得られた。

日本語で「英」「経」「清」などは漢字音では「エイ」「ケイ」「セイ」などのように表記され、「エー」[e:], 「ケー」[ke:], 「セー」[se:]などのように発音される。外来語表記では、原語で二重母音/ei/を含む場合、これを「エイ」ないし「エー」のどちらかに表記し、その表記が安定している語と両者のゆれの見られる語がある。例えば、cake [kéik], game [géim]などは「ケーキ」「ゲーム」として、paint [péint], Spain [spém]は「ペイント」「スペイン」としてそれぞれ安定しているが、main [méin], maid [méid]などは辞書によって取り扱いが異なる。『広辞苑 第4版』(1991) <広>, 『大辞林 第2版』(1995) <大>, 『新明解国語辞典 第5版』(1997) <新>, NHK編『日本語発音アクセント辞典 改訂新版』(1985) <NHK>によると次のようである。

main: 「メーン」広, 大, 新 「メイン」広, 大 (いずれも空見出し), NHK

maid: 「メード」広, 大, 新, NHK 「メイド」大 (空見出し)

なお、平成3 (1991) 年度の「外来語の表記」に関する内閣告示第2号<sup>29</sup>で「エイ」の表記に関する箇所を次に示す。

「エー」「オー」と書かず、「エイ」「オウ」と書くような慣用のある場合は、それによる。

〔例〕 エイト ペイント レイアウト スペイン (地) ケインズ (人)  
サラダボウル ボウリング (球技)

韓国語では、英語 /ei/ を에이 [ei] で受容する。

例) cake [kéik]	→ 케이크 [k <sup>h</sup> eik <sup>h</sup> i]
game [géim]	→ 게임 [keim]
paint [péint]	→ 페인트 [p <sup>h</sup> eint <sup>h</sup> i]
main [méin]	→ 메인 [mein]
maid [méid]	→ 메이드 [meidi]

調査の結果、「エイ」と表記した者が cake, game の両語で半数以上にのぼるのは、このような韓国語の外来語表記に影響されたものだと考えられる。

### 3.2.9 原語に /ou/ を含む語の場合

原語に二重母音 /ou/ を含む語について coat [kóut]「コート」を調査した。調査の結果, /ou/ を「コート」など長音符号で表記した者は 34 回答中 22 回答, 「コト」3, 「コオト」「コアト」各 2, 「コウト」1, その他 4 回答であった。

英語 /ou/ は, 日本語では, bowling [bóulin]「ボウリング」, bowl [bóul]「ボウル」のように「オウ」として表記される場合もある<sup>30</sup>が, boat [bóut]「ボート」, code [kóud]「コード」のように, 通常, 「オー」[o:]で受容される。一方, 韓国語では英語 /ou/ は, 코트[kʰotʰi](coat), 볼링[pollin](bowling)のように, 韓国語 오[o]で受容される。coat の回答として「コト」が見られたのは, 韓国語外来語の表記 코트の影響によるものだろうが, 正答率が 64.7% と高かったのは, 一つには日本語教育において「コート」が基本的な単語であることが関係していよう。また, cake, game などに含まれる英語二重母音 /ei/ が, 原語の二重母音を活かした形で, 韓国語で 에이[eɪ]として受容されるのと異なり, 英語二重母音 /ou/ が韓国語 오[o]で単母音として受容されていることが, 「コウト」の回答数を減らし, 正答率を高くしている理由であろう。

### 3.2.10 促音 /Q/ について

以前からよく言われたように, 促音 /Q/ は, 他の特殊音である長音 /R/ や撥音 /N/ とともに, 日本語学習者にとって大きな問題の一つである。今回の外来語調査でも促音の表記には多くの問題が見られた。促音に関する外来語表記の問題点を,

- ① 促音の不要な箇所促音を表記している。
- ② 促音の必要な箇所に促音を表記していない。

という2点について見ていく。①については, cake で「ケ<sup>ッ</sup>ケーキ」「カエイッ」, coat で「コ<sup>ッ</sup>ット」「ク<sup>ッ</sup>ット」, copy で「カ<sup>ッ</sup>ピ」, sweater で「スエ<sup>ッ</sup>ッタ (-)」などの回答が見られたが, その数は多くない。むしろ問題となったのは②の場合である。促音の必要な箇所に促音を表記していない回答の割合を示すと,

bat 「バ<sup>ッ</sup>ット」 23.5%    bed 「ベ<sup>ッ</sup>ッド」 35.3%    fashion 「ファ<sup>ッ</sup>ッション」 50%,

handbag 「ハンドバグ」 38.2% supermarket 「スーパーマーケツ」 20.6% である。多い語では半数のインフォーマントが、最も少ない語でも2割のインフォーマントが誤表記をしている。外来語における促音表記の問題は日本語教育においてかなり大きいと言える。

なお、促音の問題について、もう一つ付け加えておく。インフォーマントの回答に、batで「ベッ」「バエッ」、taxiで「テッシ」「タッシ」など、handbagで「ヘンドベッ」、supermarketで「スパマケッ」「スーパーマケッ」などの回答が見られたことは、3.2.1ですでに述べたが、これらはすべて、韓国語で、原語の下線部分の子音が内破音で実現されることが原因であると考えられる。

### 3.2.11 長音 /R/ について

日本語教育において長音 /R/ も促音 /Q/ と同様、問題になることが多い。韓国語の若年層話者は、母語で母音の長短の対立を失っているために、日本語の母音の長短の識別は困難を極める。外来語ではそれはさらに増幅されることが予想されるが、事実、今回の外来語調査でも長音表記には多くの問題が見られた。ここでは次の2点について見ていく。

- ① 長音の必要な箇所に長音符号を表記していない。
- ② 長音の不要な箇所に長音符号、あるいはそれに相当するカナ（例：「ギター」(guitar)、「ファッション」(fashion)など）を表記する。

まず、①について調査の結果を見てみる。調査語の中で長音を含む語について、長音符号あるいはそれに相当するカナを表記していない割合を表5、表6に示す。表5は語中長音<sup>31</sup>、表6は語末長音の場合である。長音脱落率を平均すると、語中で49.3%、語末で60.6%と語末の方が脱落率は高いものの、いずれにしても、外来語における長音の有無の識別は韓国語を母語とするインフォーマントにとって大きな問題であると言える。これには韓国語表記には母音の長短の区別がないことや、韓国語若年層話者が母語に母音の長短の対立を持っていないことなどの理由をあげることができるが、日本語の外来語における長音表記にも問題がある。例えば、sweater[swétə]にはこれをセーターと長音表記をし

て日本語に採り入れる積極的な理由に欠ける。この場合、韓国語母語話者は2重、3重の障害を克服してこの語の表記を習得しなければならないのである。

表5：語中長音の脱落率

外来語	%	外来語	%
ケ <u>ー</u> キ	58.8	ス <u>ー</u> パーマーケット	55.9
コ <u>ー</u> ト	20.6	ス <u>ー</u> パー <u>マ</u> ーケット	55.9
ゲ <u>ー</u> ム	67.6	ス <u>ー</u> パー <u>マ</u> ー <u>ケ</u> ット	79.4
ニ <u>ュ</u> ス	38.2	ア <u>パ</u> ート	38.2
コ <u>ー</u> ヒー	15.6	デ <u>パ</u> ート	52.9
セ <u>ー</u> ター	58.8		

表6：語末長音の脱落率

外来語	%	外来語	%
コ <u>ー</u> ヒ <u>ー</u>	47.1	セ <u>ー</u> タ <u>ー</u>	55.9
コ <u>ピ</u>	67.6	タ <u>ク</u> シ <u>ー</u>	82.4
ギ <u>タ</u>	50.0		

次に②の場合。長音の不要な箇所に長音符号、あるいはそれに相当するカナを表記している割合を表7に示す。なお、表では長音挿入が見られた箇所を下線で示した。また、「バット」「ベッド」「ファッション」の「ッ」は、「ッ」の替りに長音符号あるいはそれに相当するカナを表記していたことを表わす。

表7：長音の挿入率

原語	外来語	%	原語	外来語	%
bat	バ <u>ッ</u> ト	17.6	copy	コ <u>ー</u> ピー	32.4
bed	ベ <u>ッ</u> ド	38.2	guitar	ギ <u>ー</u> ター	58.8
fashion	ファ <u>ッ</u> ション	23.5	jogging	ジョ <u>ー</u> ギング	14.7
	ファ <u>ッ</u> ション <u>ー</u>	2.9		office	オ <u>ー</u> フィス
game	ゲ <u>ー</u> イム	2.9	taxi		オ <u>フ</u> ィ <u>ー</u> ス
	ゲ <u>イ</u> ム	2.9		radio	タ <u>ク</u> シー
	ゲ <u>ー</u> ム <u>ー</u>	8.8	ラ <u>ジ</u> オ		2.9
glass	グラ <u>ー</u> ス	5.9	ラ <u>ジ</u> オ	2.9	
building	ビ <u>ー</u> ル	11.8			

表7から、語により差はあるが、長音挿入もかなり多く見られることが分かる。また、促音と同様、全体的に「長音挿入」より「長音脱落」の方が数値は高いが、両者とも日本語教育における大きな問題であると言えよう。

## おわりに

以上、韓国語母語話者の外来語調査の資料をもとに、これを対照言語学的観点から分析・考察を行った。結論として、韓国語母語話者の日本語外来語表記には、

- ① 母語である韓国語の外来語表記が大きく影響している。
- ② 英語・日本語・韓国語の音韻構造とその具体音声の違いが大きく反映されている。

の2点が明らかになった。

韓国語での外来語表記はかなり規則的であり、その規則性は日本語の外来語表記と類似する点がある。しかし、外国語音を母語で代用する際、その代用音が韓国語と日本語では異なる場合が多く、そのことがインフォーマントに混乱を招く結果となったと言える。外来語を教授するにあたり、教授者は日本語と韓国語の音韻構造やその具体音声、そして両言語における外来語表記についての知識を十分持つ必要がある。そして、それを整理し、両者を比較した形で学習者に提示することにより、学習の効果をより一層促進させることができるであろう。

なお、インフォーマントの中には、カタカナの習得が十分でなかったために回答をすべてひらがなで書いた者、あるいは時々ハングル交じりで書いた者がいた。これはひらがなを習得した後、カタカナを導入することが原因であろうが、これも外来語が難しいと学習者に感じさせる一要因になっていると考えられる。

小論では、紙幅の関係で台湾語母語話者の結果について触れられなかったが、韓国語話者と台湾語話者の大きな違いは、台湾語話者には母語の外来語表記の

干渉がほとんどないことである。これには、韓国語と中国語（台湾語）における外来語表記の違いが関係している。中国語（台湾語）では、外来語表記の場合、guitar「吉他」のような例外はあるが、表意文字の漢字を用いて漢訳語として取り入れる（例：radio「收音機」、bed「床」など）のに対し、韓国語では音素文字のハングルを用いて表記する。韓国語には日本語のひらがなとカタカナのような文字の種類はないが、ともに表音文字である点は変わらない。例えば game：日本語「ゲーム」、韓国語게임[keim]、cf. 中国語「遊戲」。そこで、日本語外来語表記にあたって、台湾語話者の場合は、母語の干渉がほとんどないのに対し、韓国語母語話者では、韓国語の外来語表記が大きく干渉するのである。韓国語話者と台湾語話者の外来語についての比較は非常に興味深いだが、これについては稿を改めて述べたい。

**後記** 韓国語母語話者の資料収集にあたっては崔昇浩氏（韓国・清州大学校）に、台湾語母語話者については、邱明麗氏（台湾・輔仁大学）に多大の協力をいただいた。韓国語の音声と外来語については、早川嘉春教授（フェリス女学院大学）をはじめ、李芬雨氏（韓国・釜山女子大学校大学院生、1997年度フェリス女学院大学大学院特別研究生）、李珠雅氏（韓国・梨花女子大学校卒業生、1996年度フェリス女学院大学交換留学生）および洪珠瑛氏（韓国・梨花女子大学校学生、1997年度フェリス女学院大学交換留学生）より有益な助言を受けた。さらに、文化庁文化語課浅松絢子氏、NHK放送文化研究所放送研究部加治木美奈子氏からは貴重な資料を提供していただいた。記して感謝申し上げます。

**付記** 小論作成では、まず中東が草稿を作成し、馬瀬がそれに加筆し、さらに両者で検討を重ねて成稿とした。

## 注

- 1 ここでは外国語からの借用語のうち、漢語を除く語、つまり中国語以外の諸言語から借用した語、及び中国語から現代音によって借用した語を指すこととする。
- 2 文化庁（1995, p.12）。



- 3 これについては、例えば、加治木・岩谷・柏倉・浅松（1995, pp.191-240）などを参照されたい。
- 4 井上（1994, pp.210-219）参照。
- 5 馬瀬・安平（1992, pp.11-29），馬瀬・小橋・竹田・中東（1995, pp.7-9）参照。
- 6 小論での発音記号には国際音声記号を用いる。ただし、日本語の場合、「ウ」「ク」「ヌ」などの母音と「ス」「ズ」「ツ」の母音はともに[u]で表わした。また、英語の発音は主に米音をとりあげて示した。
- 7 カッケンブッシュ・大曾（1995, p.2）参照。
- 8 インフォーマントは、大学入学前に英語を中学・高等学校の6年間学習している。
- 9 調査では、学習者が既習の外来語を中心に行った。なお、「コーヒー」はkoffie [kófi:]でオランダ語出自であるが、本調査では英語のcoffeeを与えて回答を求めた。
- 10 調査では回答をカタカナで求めたが、ひらがなを用いた者も若干見られた。ここではそれをすべてカタカナで示した。
- 11 「ケ」を「チ」と書き誤ったものだろう。
- 12 「ツ」を「シ」と書き誤ったものだろう。
- 13 「ロ」はハングル ‘ロ’[m]を当てたものであろう。
- 14 「ツ」を「シ」と書き誤ったものだろう。
- 15 「シ」の前の「タ」は「ク」を書き誤ったものだろう。
- 16 「シ」を「ツ」と書き誤ったものだろう。
- 17 日本語では apartment house を「アパートメントハウス」ではなく一般に「アパート」と言い、そのように表記するが、韓国語話者の回答に「アパートメントハウス」あるいはそれに類似の回答が見られたので参考までに表に加えた。括弧に入れて示したのはそのためである。
- 18 日本語では department store を「デパートメントストア」ではなく一般に「デパート」と言い、そのように表記するが、韓国語話者の回答に「デパートメントストア」あるいはそれに類似の回答が見られたので参考までに表に加えた。括弧に入れて示したのはそのためである。
- 19 なお、外来語調査とは別に、英語の語頭無声閉鎖音・有声閉鎖音の識別について韓国語話者に調査したところ、両者の識別は韓国語話者にとり難しくないという結果が得られた。それは、英語無声閉鎖音は語頭で強い気音を伴い、有声閉鎖音は気音を伴わないので、韓国語話者はこの対立を「激音／平音」、つまり「気音の有無」によって識別しているためである。詳しくはNakato, Yasue（1997, pp. 191-192, 476-478）参照。
- 20 外来語調査とは別に、日本語の語頭無声閉鎖音・有声閉鎖音の識別について韓国語話者に調査したところ、両者の識別は韓国語話者にとってかなり困難であるという結果が得られた。詳しくはNakato, Yasue（1997, pp.321-326, 476-478）参照。
- 21 [ʔ]は[k]が内破音であることを示す。なお,[p],[t]は、それぞれ,[p],[t]が内破音であることを示す。以下同様。
- 22 【新英語学辞典 縮刷版】研究社（1992）には、「英語では破裂音が二つ連続すると

- きには前の破裂音は全く破裂しないか不完全な破裂に終わる」(p. 915)とある。なお、竹林(1996, pp.119-120)にも同様の記述がある。
- 23 前に触れたように「コーヒー」はオランダ語の *koffie* [kófi:] に由来する。江戸時代「カウヒイ, コウピイ, 可喜」等とも記されたという(『講談社 オランダ語辞典』1995)。
- 24 中には、英語 /ŋ/ を「ン」と表記する語も少数ある。例) *Ping-Pong* 「ピンポン」(商標名), *packing* 「パッキン」。なお、後者は最近では「パッキング」が次第に多くなっている。
- 25 発音はNHK編『日本語発音アクセント辞典 改訂新版』(1985)に従ったが、東京でガ行鼻音が衰退している現状から見て, [ŋŋw] が姿を消し, [ŋgw] と発音されるようになる日は間近い。
- 26 表記としては *radio* における「ラヂオ」のように、「ジ」を「ヂ」と書かれた時期もあった。ただし、この場合でも発音は [raʒio] である。
- 27 古くは「ビルヂング」[biruʒiŋŋw] と表記・発音された。また、「ビルデング」[birudenŋŋw] と表記・発音されたこともあった(あらかわそおべえ, 1978, p.1061)。
- 28 NHK編『日本語発音アクセント辞典 改訂新版』(1985), 『新明解国語辞典 第5版』(1997)では「セーター」のみを出し, 「スエーター」や「スウェーター」は載らない。また, 『広辞苑 第4版』(1991)では「セーター」を見出しとして採り, 「スエーター」は空見出しとして扱われている。
- 29 文化庁(1991, p.8)。
- 30 これらの語の発音はNHK編『日本語発音アクセント辞典 改訂新版』によれば, 「ボーリング」「ボール」である。ここには表記と発音との乖離が見られる。
- 31 「ケーキ」「ゲーム」で数値が高いのは, /ei/ の韓国語外来語表記の影響により, 「ケー」「ゲー」を「ケイ」「ゲイ」と表記した者が多いためである。

## 参考文献

### 【著書・論文】

- 井上史雄(1994)「専門家アクセントの性格」『方言の新地平』明治書院
- Umeda, Hiroyuki(1957)“The Phonetic System of Modern Korean”『言語研究』第32号, 日本言語学会
- 加治木美奈子・岩谷朝世・柏倉康夫・浅松絢子(1995)「国家による外来語規制—「フランス語の使用に関する1994年8月4日法律」の成立にみる—」『NHK放送文化研究所年報』No.40, 日本放送協会
- カッケンブッシュ寛子・大曾美恵子(1995)『日本語教育指導参考書16 外来語の形成とその教育』国立国語研究所
- 竹林滋(1996)『英語音声学入門』大修館書店
- Nakato, Yasue(1997)“A Study of First Language Interference in Pronunciation: With Reference to Japanese Learners of English and Korean Learners of English and Japanese”1996年度フェリス女学院大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士論文

- 文化庁(1991)『公用文の書き表しかたの基準(資料集) 増補版』第一法規出版株式会社
- 文化庁(1995)『第20期国語審議会 新しい時代に応じた国語施策について(審議経過報告)』
- 文化庁編(1997)『言葉に関する問答集—外来語編—』大蔵省印刷局
- 馬瀬良雄・安平美奈子(1992)「外来語アクセントの平板型化について」『日本語音声』研究成果報告書『東京語音声の諸相(2)』(佐藤亮一編)
- 馬瀬良雄・小橋裕恵・竹田由香里・中東靖恵(1995)「広島市方言における語アクセントの動態」『音声学会会報』第210号, 日本音声学会
- 水沼一法(1997)「英語子音に対応する日・韓外来語音の対照研究」1996年度東海大学大学院文学研究科日本文学専攻(日本語教育学コース)修士論文
- 鄭恵卿(1995)「韓国人の日本語学習における外来語表記の問題—日・韓両原語の音韻対照による分析—」『日本語教育』第87号, 日本語教育学会

#### 【辞典・用語集】

- 『角川外来語辞典 第2版』(1978) あらかわそおべえ, 角川書店
- 『日本語発音アクセント辞典 改訂新版』(1985) NHK 編, 日本放送出版協会
- 『広辞苑 第4版』(1991) 新村出編, 岩波書店
- 『講談社 オランダ語辞典』(1995) ステルケンバーグほか監修, 講談社
- 『新英語学辞典 縮刷版』(1992) 大塚高信・中島文雄監修, 研究社
- 『新聞用語集』(1954,1996) 新聞用語懇談会編, 日本新聞協会
- 『新明解国語辞典 第5版』(1997) 金田一京助ほか編, 三省堂
- 『大辞林 第2版』(1995) 松村明編, 三省堂
- 『日本語외래어사전』(1994) 손대준監修, 시사일본어사
- 『새 한글 맞춤법 사전』(1988) 박갑천監修, 집현전